



武並町竹折陽光
おおもり まさと
大森 将人さん (58歳)

□プロフィール

京都府出身。大森さんが作る「GETALS」は、日本の伝統的な履物である下駄と洋風のサンダルを掛け合わせた個性的な形をしている。令和元年、「飛騨・美濃すぐれもの」に認定された。

下駄作りは生活の一部で、仕事に興味だが、2匹の猫に毎日癒やされている。



▲台座に鼻緒を付ける作業をする大森さん

地域に恩返しを
世界の人から愛される下駄を目指して

東濃ヒノキの香りが広がる工房で、5本指下駄「GETALS」を製造、販売しているのは、大森将人さん。着物のクリーニングやリフォームの店を営んでいる。大森さんは、結婚を機に武並町に移住。友人から「着物のメンテナンス業をしてみないか」と誘いを受け、店を開業した。最初は、一軒一軒美容室や着付け教室を探して営業に回っていた。数年かけて地道に訪問を続けるうち、お客さんがついてくれるようになった。着物について雑談をしていた時、着付け教室の先生から「5本指の下駄を作ってくれないか」と相談を持ち掛けられ、本業の傍ら、開発に取り組みすることにした。

5本指下駄を作るため、下駄の台座や鼻緒を製造する会社に出向き、仕入れを行ったり特注を依頼したりして、試行錯誤を重ねて下駄は完成。ものづくりの経験はなかったが、お客さんに喜んでほしい、その一心で取り組んだ。「足の痛みが軽くなったなど、お客さんが喜んで履いてくれる姿を見ると、作って良かったと心から思う」と話す。完成した下駄は、冷え性対策になるなどと評判が高かった。しかし、少し経つと「ソール部分の耐久性を上げてほしい」などの要望が寄せられるようになった。要望に応えるため、木工用NCルーターを購入。自社生産に切り替え、商品の改良を重ねた。「世界中の人に履いてほしい。武並町を目指して、たくさんの方が訪れる商品にしたい」と笑顔で話す。

この11月、工房の移転を機に、テークアウト専門のカフェを併設した。地元で取れた食材を使ったメニューはスタッフが考案し、好評を得ている。「自分を支えてくれた地域に恩返しをしたい。活性化につながればうれしい」と語る。

出会いに感謝し、商品を手にした人が喜んでくれることを常に考えてきた大森さん。これからも期待に応えるため、挑戦は続く。



その他の話題もウェブサイトに満載

11/25

若者が働きたくなる農業
日本農業賞の県表彰を受賞



農事組合法人富田営農（岩村町）が、第52回日本農業賞集団組織の部で県表彰を受賞しました。スマート農業推進による組織づくりや人材育成に尽力したことが評価されました。塚田文彦代表理事は「歴代の代表や従業員のおかげ」と喜びを話しました。

11/29

「諦めず、自分なりに取り組む」
車いすバスケット選手が講演



長島小学校で県内で唯一の車いすバスケットボールチーム「岐阜 SHINE」の創設者でキャプテンの池田義隆選手による講演と体験会が行われました。何事も諦めないことや、与えられた環境の中で、自分なりに取り組んでいくことが大切だと、児童に強く訴えました。

12/9

市消防団大井分団に小型動力
ポンプ付積載車を配備



市消防団大井分団に配備されている小型動力ポンプ付積載車が24年経過したことから、新しい車両が配備されました。可知慎也分団長は「市民の皆さまの協力で、新しい車両が貸与されました。大事に扱い、よりいっそう地域の安心安全に貢献します」と決意を述べました。

11/20

地元産業の魅力に触れて学ぶ
恵那産業EXPO2022



恵那産業博覧会から名前を変えた恵那産業EXPOが7年ぶりに開催され、親子連れらが市民会館内外の約80のブースで、地元企業の仕事に触れました。油圧ショベルの操作体験をした藤原多央さん（大井町）は「働く車が大好き。体験できて楽しかった」と喜びました。

11/26

明智小学校150周年記念
学習発表会を開催



明治5年創立の明智小学校が、150周年を迎えました。この日の学習発表会では、児童らが、旧吉田小学校や山本芳翠など「ふるさと明智」をテーマに学んできた成果を発表。6年生の遠山稜征さんは「これからも明智町のことを学び、地域を大切にします」と話しました。

12/3・4

女性たちの熱き戦い、第6回
ウィメンズラリーを開催



WOMEN'S RALLY in 恵那 2022 が恵那笠置山モーターパークなどで開催され、多くのファンが、女性ドライバーらに声援を送りました。長野県塩尻市から父親と観戦に来た宮下直能さんは「エンジン音やタイヤの擦れる音が良かった」と笑顔で話しました。